

日本海事センター



補助事業

会報

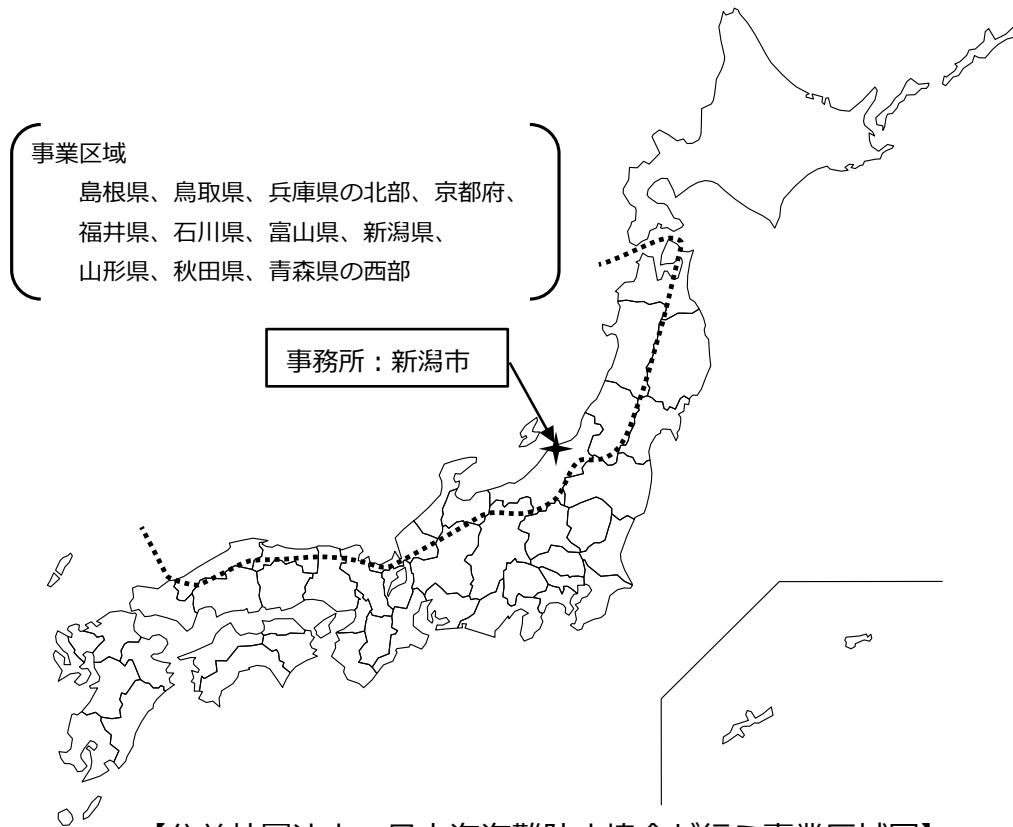
第143号



公益社団法人
日本海海難防止協会

日本海海難防止協会は、本州日本海沿岸(山口県を除く)及び付近水域における、海上交通の安全に寄与するため、次の事業を行っております。

- (1) 船舶の航行安全及び海難防止に関する事項の調査研究
- (2) 船舶の航行安全に関する教育指導及び情報の提供
- (3) 海難防止に関する事項の周知宣伝
- (4) その他本協会の目的を達成するために必要な事業



【公益社団法人 日本海海難防止協会が行う事業区域図】

アクセス

- 新潟駅(JR 信越線)から
徒歩 約 25 分、タクシー利用 約 10 分、
バス利用 新潟交通 北ふ頭 約 20 分
北ふ頭 停留所下車徒歩約 5 分
- 新潟空港から
タクシー利用 約 20 分、バス利用 北ふ頭 約 20 分
- 車
国道 113 号線竜が島郵便局前交差点を左折直進、
信号を一つ通過後右折し約 50m



目 次

会長年頭の挨拶	1
I 事業報告	
I-1 調査研究	3
1 新潟港(西港区)大型客船入出港に係る航行安全調査	3
1-1 第1回調査会	3
1-2 ビジュアル操船実験	4
1-3 作業部会	4
1-4 第2回調査会	4
2 日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究 (美保湾、隠岐諸島及び浜田港周辺海域)	5
2-1 第1回委員会	5
2-2 第2回委員会	6
3 金沢港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査	7
3-1 第1回委員会	7
3-2 第2回委員会	7
4 八峰能代沖洋上風力発電事業に伴う秋田港・船川港利用計画に係る航行安全調査 ...	8
4-1 第1回委員会	8
5 敦賀港クルーズ客船入出港に係る航行安全調査	9
5-1 第1回委員会	9
5-2 ビジュアル操船実験	9
II 会 務	
II-1 業務予定	10
III 海の安全情報	
III-1 冬季海難防止活動 NO. 1	11
III-2 冬季海難防止活動 NO. 2	13
III-3 A I Sを活用した船舶海難の未然防止について	15

Ⅲ－４	雪は大敵！船舶の転覆に注意！.....	18
Ⅲ－５	津波に伴う港長等からの勧告について.....	20
Ⅲ－６	海上安全指導員制度について.....	22

Ⅳ 寄稿欄

舞鶴の神様たち（池姫神社）	23
---------------------	----

Ⅴ 連絡事項

会員名簿の変更	26
---------------	----

会長年頭の挨拶

新年あけましておめでとうございます。

令和7年の新しい年を迎え、皆様には新春を健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。

また、日頃より当協会の運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。



代表理事会長 南波 秀憲

昨年は、年明け早々に当協会エリアにおいて能登半島地震が発生し、9月には能登半島豪雨と相次いで甚大な自然災害が発生しました。お亡くなりになられた方々をはじめ、ご家族、ご親戚などの方々に対しまして、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様が安全で安心できる生活を一日も早く取り戻し、石川県をはじめとした被災地域が復旧・復興することを心より祈念いたします。

昨年1年を振り返りますと、10月に石破新政権が誕生、11月にはアメリカで大統領選挙が行われトランプ政権が発足することとなり、日米両国にとって大きな変動の年となりました。

近隣諸国においてはロシアによるウクライナへの軍事侵攻や相次ぐ北朝鮮によるミサイル発射など解決を見いだせない事態が依然として続いており、日本国内においても冒頭述べました能登半島豪雨をはじめとしたゲリラ豪雨、猛暑、これに起因する農作物への影響など地球温暖化が起因と思料される出来事が連日のように報道され暗い話題も多い1年でした。

一方、国民が熱狂した明るい話題も多くありました。7月に開催されたパリオリンピックでは20個の金メダルを含め45個のメダルを獲得し海外で開催された大会での最多数を更新したほか、メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が50-50を達成するとともに2年連続のシーズンMVPに選出され、「大谷翔平」がヤフー検索大賞に、「50-50」が新語・流行語大賞にノミネートされるなど、日本選手の活躍により国内が大いに盛り上がりました。

本年は、このような我々に活気を与えてくれる明るい話題が一つでも多く提供される1年であることを大いに期待しているところです。

さて、当協会の事業エリアに目を向けますと、カーボンニュートラルの切り札として期待される洋上風力発電事業においては、昨年4月に海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾(基地港湾)としてこれまで指定されていた秋田港、能代港及び新潟港に加え新たに青森港と酒田港が指定され、6月には経済産業省等が行う「浮体式洋上風力発電実証事業」において秋田港南部沖が実

施海域に決定したほか、12月には再エネ海域利用法に基づく促進区域である青森県沖日本海(南側)及び山形県遊佐町沖の事業者が決定するなど日本海側の洋上風力発電事業は着々と進捗しています。また、観光立国に向けた大型クルーズ客船の入港は今後の予定も含め着実にその歩みが進んでいるところです。

当協会におきましては、令和2年度から「日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究」を当協会の自主事業として継続実施してきたところ、今年度実施している美保湾、隠岐諸島及び浜田港周辺海域をもって完了することとしており、海事関係者の皆様から評価をいただき大変ありがたく思っています。

令和7年度からは、洋上風力発電事業の加速や大型クルーズ客船の寄港拡大など港内の航行環境が大きく変化していることを鑑み「日本海主要港湾における船舶交通安全対策に関する調査研究」を新たに実施していく予定としています。

また、洋上風力発電事業などに伴う受託事業につきましては、引き続き地元の皆様のニーズにしっかり応えられるべく船舶航行安全調査を行い、船舶の航行安全に寄与していくこととしております。

今年は“巳年”。脱皮し強く成長する蛇はその成長力から「不老長寿」や「更なる成長」を象徴する動物だそうです。皆様におかれましては、健やかで実り多い素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

I 事業報告

I-1 調査研究

1 新潟港(西港区)大型客船入出港に係る航行安全調査

調査会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長)	矢吹 英雄	東京海洋大学 名誉教授
	高橋 勝	海上保安大学校 名誉教授
	松田 洋和	一般社団法人日本船長協会 副会長
	笹岡 昭二	新潟水先区水先人会 会長
	野口 浩章	新潟港船舶代理店会 事務局 株式会社リンコーコーポレーション 船舶代理店部長
	藤原 道生	日本海曳船株式会社 業務部 部長
	笠原 力	新日本海フェリー株式会社 執行役員新潟支店長
	真保 高弘	佐渡汽船株式会社 常務執行役員安全統括管理者
	(オブザーバー)	
	山本 孝之	新潟水先区水先人会 副会長

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部 交通部
新潟海上保安部
北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所
北陸信越運輸局 海事部
新潟地方气象台

1-1 第1回調査会

- (1) 開催日：令和6年7月24日(水)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 議題：
 - ① 大型客船の入港計画について
 - ② 調査検討の計画について
 - ③ 新潟港の現況について
 - ④ 航行環境について
 - ⑤ 操船に係る基礎検討について
 - ⑥ 操船シミュレーションによる検討(ビジュアル操船実験方案)について

1-2 ビジュアル操船実験

- (1) 開催日：令和6年10月8日(火)、9日(水)
- (2) 場所：東京都 MOLマリン&エンジニアリング株式会社
シミュレータ室

1-3 作業部会

- (1) 開催日：令和6年11月14日(木)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 議題：
 - ① 第1回調査会質疑の対応について
 - ② 操船シミュレーションによる検討について(ビジュアル操船実験結果)
 - ③ 係留の安全性について
 - ④ 航行安全対策案について

1-4 第2回調査会

- (1) 開催日：令和6年12月18日(水)
- (2) 場所：新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
- (3) 議題：
 - ① 第1回調査会質疑の対応について
 - ② 操船シミュレーションによる検討(ビジュアル操船実験結果)について
 - ③ 係留の安全性について
 - ④ 航行安全対策について
 - ⑤ 報告書構成案について

2 日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究

(美保湾、隠岐諸島及び浜田港周辺海域)

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長) 日當 博喜 海上保安大学校 名誉教授
松田 洋和 一般社団法人日本船長協会 副会長
森脇 啓治郎 境水先区水先人会 会長
柏木 仁志 NX境港海陸株式会社 船舶代理店課長
野村 宏敏 株式会社上組 大阪支店境港出張所 所長
佐々木伸一郎 浜田港運株式会社 代表取締役
池田 則文 隠岐汽船株式会社 取締役統括部長
景山 一夫 鳥取県漁業協同組合 代表理事組合長
福島 英治 漁業協同組合 J F しまね 常務理事

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部 交通部
第八管区海上保安本部 海洋情報部
境海上保安部
浜田海上保安部
隠岐海上保安署
中国地方整備局 港湾空港部
中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所
中国運輸局 鳥取運輸支局(境庁舎)
中国運輸局 島根運輸支局
鳥取地方气象台
松江地方气象台
境港管理組合
島根県 土木部港湾空港課

2-1 第1回委員会

- (1) 開催日：令和6年9月25日(水)
- (2) 場所：米子市 ANAクラウンプラザホテル米子
- (3) 議題：
 - ① 調査研究の計画について
 - ② 港湾の現況について
 - ③ 気象海象について
 - ④ 海難の状況について
 - ⑤ 対象海域の船舶状況について

2-2 第2回委員会

- (1) 開催日：令和6年11月19日(火)
- (2) 場所：米子市 ANAクラウンプラザホテル米子
- (3) 議題：
 - ① 情報提供及び安全指導について
 - ② 荒天時の錨泊について
 - ③ 避泊錨地の安全性について
 - ④ 荒天錨泊の安全対策について
 - ⑤ 調査・研究の成果について

3 金沢港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長)	遠藤 真	富山高等専門学校	名誉教授
	高橋 勝	海上保安大学校	名誉教授
	滝浦 文隆	一般社団法人日本船長協会	常務理事
	篠崎 啓二	七尾水先区水先人会	会長
	東川 昌樹	株式会社金沢港運	海務部長
	島本 卓	石川県漁業協同組合	参事
	川窪 光秀	金沢港北地区特別防災区域協議会	共同防災センター所長
	(オブザーバー)		
	木下 博	七尾水先区水先人会	副会長

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部 交通部
金沢海上保安部
北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所
北陸信越運輸局 石川運輸支局(七尾庁舎)
金沢地方气象台

3-1 第1回委員会

- (1) 開催日：令和6年10月25日(金)
- (2) 場所：金沢市 ANAクラウンプラザホテル金沢
- (3) 議題：
 - ① 港湾計画改訂の計画案について
 - ② 調査検討の計画について
 - ③ 金沢港の現況について
 - ④ 航行環境について

3-2 第2回委員会

- (1) 開催日：令和6年12月10日(火)
- (2) 場所：金沢市 ANAクラウンプラザホテル金沢
- (3) 議題：
 - ① 航行の安全性について
 - ② 航行安全対策について
 - ③ 報告書構成案について

4 八峰能代沖洋上風力発電事業に伴う秋田港・船川港利用計画に係る航行安全調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長)	矢吹 英雄	東京海洋大学	名誉教授
	高橋 勝	海上保安大学校	名誉教授
	松田 洋和	一般社団法人日本船長協会	副会長
	下山 和広	秋田船川水先区水先人会	会長
	西宮 公平	秋田海陸株式会社	代表取締役社長
	杉山 安生	日本通運株式会社	秋田物流事業所 所長
	渡邊 卓真	秋田洋上風力発電株式会社	秋田港洋上風力発電所 所長
	高橋 政志	新日本海フェリー株式会社	秋田支店 支店長
	菊地 智英	秋田県漁業協同組合	専務理事
	仲谷 孝治	株式会社マリーナ秋田	代表取締役専務

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部 交通部
秋田海上保安部
東北地方整備局 秋田港湾事務所
東北運輸局 秋田運輸支局
秋田地方气象台
秋田県 建設部港湾空港課
秋田県 秋田港湾事務所
秋田県 船川港湾事務所

4-1 第1回委員会

- (1) 開催日：令和6年11月27日(水)
- (2) 場所：秋田市 ホテルメトロポリタン秋田
- (3) 議題：
 - ① 秋田港等の利用計画について
 - ② 調査検討の計画について
 - ③ 港湾の現況について
 - ④ 航行環境について

5 敦賀港クルーズ客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

(順不同・敬称略)

「委員」

(委員長)	日當 博喜	海上保安大学校 名誉教授
	遠藤 真	富山高等専門学校 名誉教授
	松田 洋和	一般社団法人日本船長協会 副会長
	三反崎紀夫	福井県水先人会 会長
	田中 宏文	敦賀海陸運輸株式会社 常務取締役
	鳥羽 学	日動海運株式会社 代表取締役
	民谷 和弘	敦賀セメント運輸株式会社 取締役現業部長
	水馬 一彦	敦賀ターミナル株式会社 業務部主幹
	遠藤 英昭	新日本海フェリー株式会社 敦賀支店長
	内藤 英樹	北陸電力株式会社 敦賀火力発電所 所長
	相田 康太	近海郵船株式会社 敦賀営業所長
	森 修	敦賀市漁業協同組合 代表理事組合長
	鷹中 亨	福井県小型船交通安全対策協議会 事務局長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部 交通部

敦賀海上保安部

北陸地方整備局 敦賀港湾事務所

中部運輸局 福井運輸支局

福井地方気象台

5-1 第1回委員会

- (1) 開催日：令和6年12月4日(水)
- (2) 場所：福井市 ザ・グランユアーズフクイ
- (3) 議題：
 - ① クルーズ客船の入港計画について
 - ② 調査検討の計画について
 - ③ 敦賀港の現況について
 - ④ 航行環境について
 - ⑤ 操船に係る基礎検討について
 - ⑥ 操船シミュレーションによる検討(ビジュアル操船実験方案)について

5-2 ビジュアル操船実験

- (1) 開催日：令和6年12月19日(木)、20日(金)
- (2) 場所：川崎市 株式会社日本海洋科学シミュレーションセンター

Ⅱ 会 務

Ⅱ－１ 業務予定

	内 容	予 定 月 日
(1)	敦賀港クルーズ客船入出港に係る航行安全調査 第2回委員会	令和7年1月23日
(2)	敦賀港クルーズ客船入出港に係る航行安全調査 作業部会	令和7年2月下旬
(3)	八峰能代沖洋上風力発電事業に伴う秋田港・船川港利用計画 に係る航行安全調査 第2回委員会	令和7年3月5日
(4)	令和6年度 第3回理事会	令和7年3月13日
(5)	敦賀港クルーズ客船入出港に係る航行安全調査 第3回委員会	令和7年3月下旬
(6)	会報第144号発行	令和7年4月下旬

Ⅲ 海の安全情報

Ⅲ-1 冬季海難防止活動 NO. 1

～東北出身の歌手 工藤綾乃さんをPR大使に任命～

第二管区海上保安本部交通部 航行安全課

東北地方の冬季、特に日本海側は北西からの強い季節風が連吹し、船舶の走錨に起因する乗揚げ海難など、船舶事故の発生リスクが高まります。

このため、第二管区海上保安本部では、12月1日から翌年2月末までの間を冬季海難防止活動期間として、リーフレット配布などの啓発活動を展開しています。

平成25～28年には、港外に錨泊していた大型船舶が暴風により走錨し消波ブロックへ乗揚げ、船体損傷・油流出する等、日本海側での暴風による外国貨物船の乗揚げ海難が連続発生しことから、走錨海難を防止するため、以下の重点項目のほか注意喚起を実施しています。

今年度の重点目標は、下記3点としています。

- ◇ 最新の気象・海象情報の入手
- ◇ 荒天が予想される場合の早期避難
- ◇ 荒天時の錨泊中における適切な見張りの徹底

▶ 走錨海難を防止するための基本的事項

- ・ 気象海象情報の入手と常時把握
- ・ 国際VHF(16ch)の常時聴取
- ・ 錨かきの良い錨地の選定
- ・ 陸岸、障害物、他船等との十分な距離
- ・ 見張り(自船及び他船の走錨監視等)
- ・ AIS常時作動(AIS搭載船に限る)

▶ 荒天時には？

- ・ 守錨当直体制の強化
- ・ 錨鎖の伸長又は錨泊方法の変更
- ・ 開口部閉鎖と移動物の固縛
- ・ バラスト及びトリム調整
- ・ エンジンスタンバイと乗組員即応体制
- ・ 状況により錨泊中止→ちちゅう航法など

▶ 走錨を確認する方法

- ・ 風を両舷交互に受けず片舷からのみ受けるような場合、走錨と判断する。
- ・ 異常なショック感や錨鎖の張り具合から知る。
- ・ レーダー映像の固定物標の距離と方位の変化から知る。
- ・ 正横付近にある物標のトランジットの変化(ズレ)から知る。
- ・ 他の錨泊船との関係から知る。

今年度の冬季海難防止活動のトピックスとして、東北出身の歌手 工藤綾乃 さんを冬季海難防止活動のPR大使に任命し、11月28日、一日宮城海上保安部長として迎え、太平洋フェリーの所属船に対して安全指導を実施しました。



今後も冬季における海事関係者の安全意識向上と海難防止への関心を高めるとともに、広く東北地方の方々に冬季海難防止活動を知ってもらい、冬季海難ゼロを目指します。

第二管区海上保安本部 冬季海難防止活動リーフレット

海の安全情報

走錨事故防止ポータルサイト

最新気象・海象情報の入手
 荒天が予想される場合の早期避難
 荒天時の錨泊中における適切な見張りの徹底

第二管区海上保安本部 公益社団法人 日本海難防止協会

お問い合わせ 第二管区海上保安本部 宮城県東宮原山田3-4-1 代表 022-363-0111

Ⅲ－2 冬季海難防止活動 NO. 2

～発達した低気圧の影響による転覆や浸水などに注意～

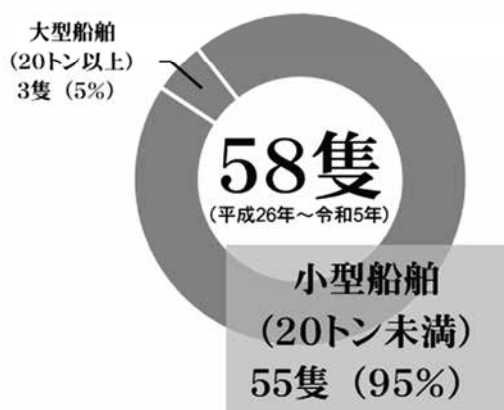
第二管区海上保安本部交通部 安全対策課

東北地方では、発達した低気圧の影響により、漁港等において、係留船舶の転覆や浸水などの事故が多発しています。

平成26年から令和5年までの過去10年間で、荒天の影響による係留中の船舶事故隻数は58隻であり、総トン数別では、小型船舶が55隻と9割を超え、その内、漁船が48隻と8割を超えていました。

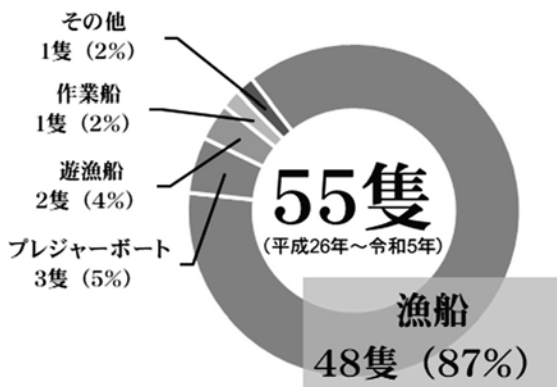
また、小型船舶の事故種類別としては転覆が最多で、主な原因としては、高波による海水の侵入や積雪により、船体が傾くことで生じたものと考えられます。

総トン数別

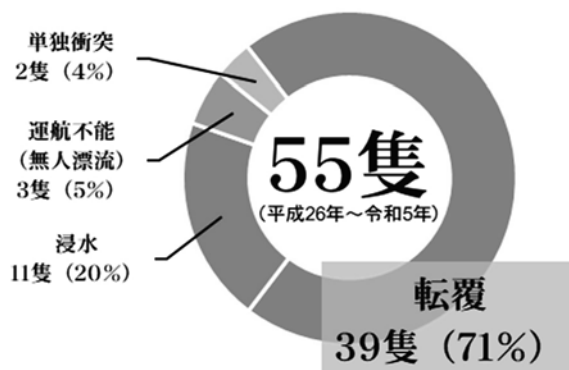


【転覆の状況】

船舶種類別 (小型船舶)



事故種類別 (小型船舶)



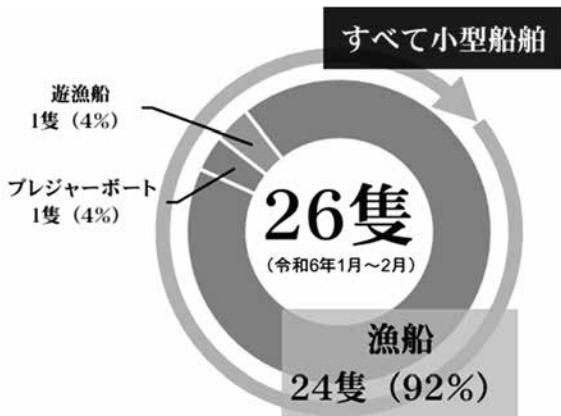
更に、令和6年1月から2月にかけても、発達した低気圧の影響により、係留船舶の漂流や転覆などの事故が多発しました。

船舶事故隻数は26隻で、すべて小型船舶であり、その内の9割が漁船でした。

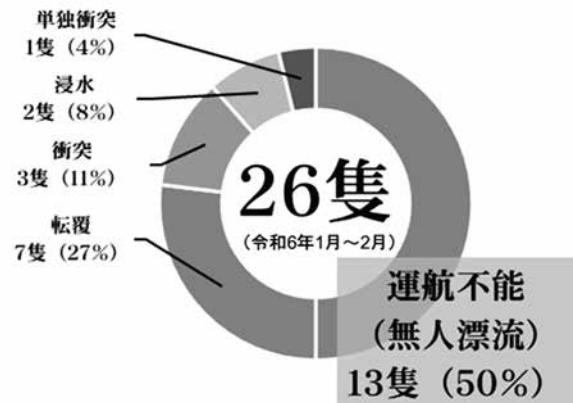
また、事故種類別としては、運航不能（無人漂流）（乗船者がいない状態で、船体が海上を漂流すること）が13隻と半分を占めていました。

運航不能（無人漂流）の主な原因としては、係留状態の不備により生じたものだと考えられます。

船舶種類別（小型船舶）



事故種類別（小型船舶）



このような悲惨な事故を防止するため、第二管区海上保安本部では、令和6年12月1日から令和7年2月28日までを『冬季海難防止活動』期間と定め、海上荒天に伴う船舶事故の防止活動を重点的に実施しています。

荒天時の風向きによっては、港内にも波やうねりが入ってくるなど、十分な注意が必要です。

大丈夫だろうと慢心せず、自分自身の船を守るため、ライフジャケット等安全装備を着用し、荒天前の穏やかな気象の時に、以下の事故防止対策を実施してください。



【無人漂流の状況】

【荒天時の係留船舶の事故を防止するためのポイント】

- ✓ 可能であれば、安全な港への回航又は船舶を陸揚げし、固縛！
- ✓ 係留索の摩耗・損傷状況を点検し、擦れあてを適切な位置に設置！
- ✓ 索の本数を増やすなどの係留強化！
- ✓ 高潮等による潮位変化を考慮して、係留索の長さを調整！（増し索を設置する場合は、本索の長さとは合わせる。）
- ✓ 防舷物は適切な位置に、適切な数量を設置！
- ✓ 開口部は確実に閉鎖！
- ✓ 雪が船内に積もらないように、シートで覆う！
- ✓ 積雪による浸水防止のため、重量物は取り外す！



Ⅲ－３ A I Sを活用した船舶海難の未然防止について

第八管区海上保安本部交通部 航行安全課

これからの季節は、発達した低気圧の影響により、走錨事故等の船舶海難の発生が懸念されます。第八管区海上保安本部（以下、「八本部」という。）では、これら海難事故を防止するため、A I S（船舶自動識別装置）を使用した情報提供や錨泊自粛のお願い等を行っていますので、最新の気象情報の確認とともに、A I Sメッセージの確認にも努めていただきますようよろしくお願いいたします。

1 A I Sによる船舶の安全運航の支援

八本部では、舞鶴船舶通航信号所を運用し、京都府、福井県、兵庫県（日本海側に限る。）、島根県及び鳥取県の沿岸海域を航行するA I S搭載船舶に対して、漂流物や気象海象情報等の各種航行安全情報を提供し、また、定置網や浅瀬などに乗揚げのおそれのある船舶、荒天時に錨泊中の船舶で走錨のおそれのある船舶を認知した場合、A I Sメッセージ、船舶電話、国際VHF等により注意を喚起するなどして船舶事故の未然防止を図っております。

A I S（船舶自動識別装置）は、船舶局又は海岸局の無線設備で、搭載船舶の位置情報、速力、船首方位等の動的情報、船名、船の長さ・幅、船の種類等の静的情報、目的地、到着予定時刻等の航海関連情報といった航行の安全に関する情報を、船舶相互間又は船舶と陸上の間において自動的に送受信するシステムです。

2 荒天時の走錨等に起因する事故の防止対策

（1）背景

平成30年9月、台風第21号による強風等の影響で、油タンカーが走錨し、関西国際空港連絡橋に衝突する事故が発生しました。また、令和元年9月には、台風第15号で、横浜港の南本牧はま道路へ貨物船が衝突するなど、台風等の異常気象が頻発・激甚化する中、走錨船舶による海上施設や他の船舶への衝突事故が複数発生しました。

これらの事故を受けて、海上保安庁では全国的に走錨対策の強化を図るとともに、令和3年7月1日「改正海上交通安全法」により、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海において、特に勢力の強い台風の来襲が予想される場合に湾外避難及び入湾回避の勧告を行うこととなりました。

（2）中海における錨泊自粛のお願い

全国的な走錨対策強化のひとつとして、八本部管内では、米子空港が重要施設として選定されており、17ページ掲載のリーフレット「荒天時の走錨等に起因する事故防止について」のとおり、同空港の航空導灯（西側）を中心とする半径3海里以内の海域において、錨泊の

自粛をお願いしています。八本部では、走錨事故が発生することのないよう、錨泊の自粛の情報をAISメッセージ、海の安全情報及び国際VHFで提供していますので、台風や低気圧の接近が予想される場合、船長は、これらの情報入手に努めるとともに、錨泊自粛期間中は、同海域での錨泊を避け、安全な海域へ避難してください。

(3) 八本部におけるAISメッセージを活用した新たな取り組み

令和6年10月30日から、八本部においても、特に勢力が強い台風の接近時、暴風警戒域内の全船に台風の影響が少ない海域への早期避難を促すことを目的として、AISメッセージを活用した新たな情報発信の取り組みの運用を開始しました。

気象庁が発表する台風に関する情報で、管内に非常に強い台風、または、猛烈な台風の接近することが予想される場合、当該台風の強風域が管内に入る24時間以上前までに、管内全域の船舶に対してAISメッセージを発出します。

3 AISメッセージの確認等

八本部では引き続き、乗揚げや走錨に起因する船舶海難の未然防止のため、AISによる監視強化及びAISメッセージやVHF等による情報提供を続けてまいりますので、船舶を運航する方（船長、運航管理者等）にあっては、「AISの電源を常時ON」、「出港前に、自船のAIS情報が正しく入力されているかの確認」、「AIS受信メッセージの定期的な確認」及び「VHFの常時聴取」をお願いいたします。

荒天時の走錨等に起因する事故防止について

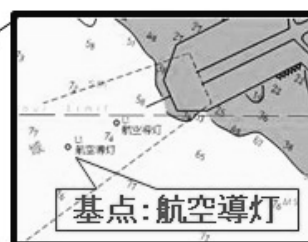
～荒天時における境海上保安部からのお願い～

中海に設置されている米子空港の航空導灯(西側)を中心とする半径3海里以内の海域においては、荒天時の走錨等に起因する事故を防止するため、**錨泊の自粛をお願いします。**(美保湾を除く)

錨泊の自粛をお願いする期間: 気象庁から鳥取県米子地区又は島根県松江地区に「暴風」又は「暴風雪」の**気象警報が発表又は発表が予測される時から同警報が解除されるまで。**

※ 走錨: 強風などによって船が錨を引きずりながら流されること。

【荒天時の錨泊自粛海域図】



錨泊の自粛をお願いする期間ではなくとも、『走錨は起こりうる』との認識のもと、以下の点について注意して運航してください。

- ・ 最新の気象情報等入手し、影響が少ない海域へ早めの移動(台風の右半円を避ける等)
- ・ 状況に応じて錨泊をしないという選択肢も考慮(ちちゅう等)
- ・ 運航管理者等による安全を重視した適切なサポート(船側が必要とする情報の提供、助言)



平成30年9月4日、台風21号による強風の影響で走錨した船舶(油タンカー、総トン数2591トン)が、関西国際空港連絡橋に衝突、船舶交通の安全が阻害されるとともに、空港へのアクセスが遮断され、人流・物流に甚大な影響が発生しました。

境海上保安部では、中海で同種事故が発生するのを防止するため、荒天時における錨泊の自粛を求めるものです。

事故防止のため、ご協力をお願いいたします。

 海上保安庁

〒684-0034 鳥取県境港市昭和町9-1

境海上保安部 交通課

TEL・FAX : 0859-42-2534

Ⅲ－４ 雪は大敵！船舶の転覆に注意！

～大切な船を守るために～

第八管区海上保安本部交通部 安全対策課

第八管区海上保安本部の管内である島根県から福井県の沿岸では、12月から2月にかけて、降雪による小型船舶の転覆、浸水事故が発生しやすくなる時期となります。

平成22年12月には、鳥取県を中心に70センチの積雪があり、係留中の19トンの漁船など353隻が転覆、浸水し、平成29年2月にも鳥取県鳥取市から福井県小浜市に至る広い範囲で発生した70センチを超える積雪により、計69隻もの船舶が転覆、浸水しています。



【令和3年の降雪被害状況】

上記の被害を受け、当管区では毎年大雪に対する注意喚起に力を入れておりますが、平成22年ほどではないにしても、ほぼ毎年数隻の係留中の船舶が雪による浸水や転覆の被害に遭っています。

今年の12月から2月までの気象庁の予報では、管内を含む日本海側の降雪量は平年並みか多いという予報ですが、近年では温暖化の影響で一度に多くの積雪量が観測されるいわゆる“ドカ雪”に注意が必要です。積雪による事故を防ぐため、所有者が事前に気象情報を確認したうえで、船舶にシートをかけるなどの対策をし、定期的な巡回を行い、除雪を行うなどの対応を取る必要があります。

当管区本部や管内各保安部署では、海事関係者の皆様に対し積雪による事故の防止に係る継続的な注意喚起を行うとともに、一般の小型船舶所有者に向けたSNSでの注意喚起も行うなど、冬季における事故ゼロを目指し、活動しています。

雪の備えは万全に!!

八管安全ダイジェスト Vol.25

被害を防ぐため

事前の対策が重要です!

降雪時期には積雪により船舶の浸水・転覆といった事故が発生します。八管区では過去に大雪で多くの被害が出ており、注意が必要です!



● 係留索を増強する



● 早めに陸揚げする



● シートで覆う



● 重量物を取り外す



最新の気象情報を入手し、早めに対策を行いましょう。また、除雪作業時は「救命胴衣」を着用して「複数名」で安全を優先して行いましょう!



海の安全情報

Maritime Information and Communication System

現在地周辺の安全情報が

地図画面上で一目で分かる!



第八管区海上保安本部

問い合わせ先

交通部安全対策課

TEL0773-76-4100 (代表)

Ⅲ－５ 津波に伴う港長等からの勧告について

第九管区海上保安本部交通部 航行安全課

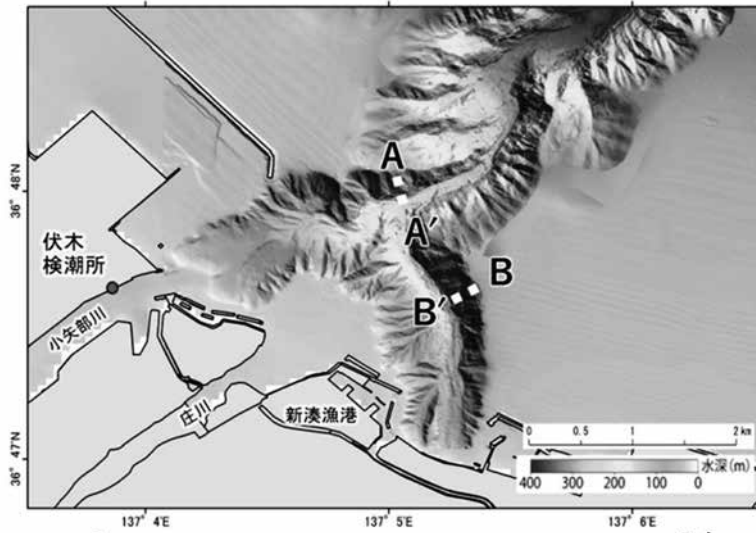
令和6年の1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」から早くも1年が経過しました。被災された方々に、改めて心からのお見舞いを申し上げるとともに、犠牲になられた方々のご冥福、そして今なお続いている過酷な避難生活などが1日も早く解消されることをお祈り申し上げます。

能登半島地震は令和6年1月1日の午後4時10分に発生し、最大震度7が観測されました。その後、気象庁から北陸地方の各地に津波注意報、津波警報、大津波警報が発表されたことを受け、各港長等から警戒勧告や避難勧告が発出されました。

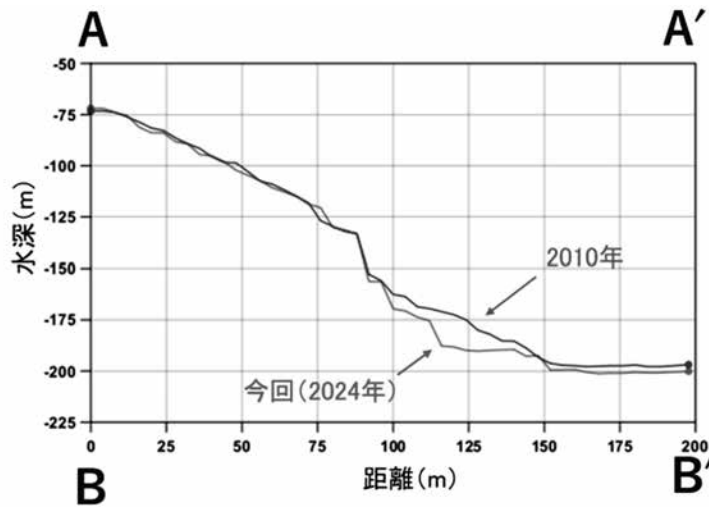
津波に伴う勧告については、時間的な余裕がない場合が多く、原則、気象庁からの津波警報等の発表をもって、港長等から勧告が発出されたものとして、行動を開始する必要があります。地震発生時は、ご自身や関係者の生命を最優先にしつつ、速やかに対応できるよう、平時においても、各港協議で決められている津波対策を確認しておくことが肝要です。

なお、今回の地震では、地震発生後極めて早い段階で津波の第1波が観測されており、沿岸のごく近い地点で津波が発生した可能性が指摘されています。これをうけ海上保安庁では伏木富山港付近の海底調査を実施したところ、海底谷の斜面が南北約3km、東西約500mにわたって崩れ、水深が最大10m程度深くなっていることが明らかになりました。

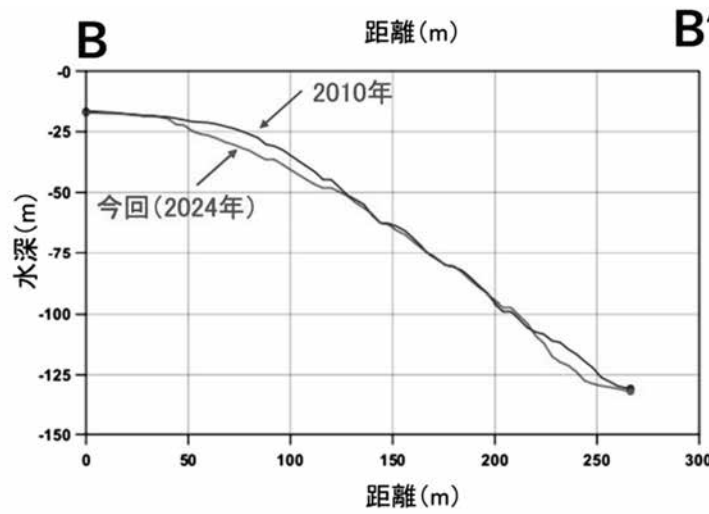
現時点で詳しい因果関係は判明しておりませんが、このような斜面崩壊（海底地すべり）は津波の発生源となるところ、沿岸近くで津波が急に発生する可能性があることを念頭に、今後も震災への備え及び発災時の航行安全対策へのご協力をお願いいたします。



A A'



B B'



2010年と今回(2024年)の海底地形の比較(断面図)

(参考) 海上保安庁海洋情報部, 2024, 海洋情報部からの記者発表

Ⅲ－6 海上安全指導員制度について

～北陸のマリンレジャーの安全のために～

第九管区海上保安本部交通部 安全対策課

海上安全指導員とは・・・

海上保安庁が1974年に海上安全指導員制度を創設してから、昨年で50年目を迎えました。

海上安全指導員（以下「指導員」と称す。）とは、安全航行に関する周知・啓発活動を自主的に実施している民間有志の方々の中から海上保安庁が指名した方をいい、健全かつ安全なマリンレジャー活動の推進にご協力いただいています。

九管内では114名（令和6年11月現在）の方が指導員として活動されております。

また、指導員が活動に使用するボートや水上オートバイを「安全パトロール艇」として指定しており、管内の安全パトロール艇は87隻となっております。

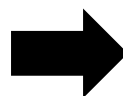
指導員の方々は、活動に際して指導員手帳を携行、腕章を身に着け、安全パトロール艇には指導員旗を掲揚し、船体にステッカーを掲示するほか、令和4年から「海上安全指導員ビブス」を着用し、活動いただいております。

指導員の方々は、長く地域で活動していることもあり、海域特性や注意すべきことに精通しているため、きめ細かい指導が期待でき、プレジャーボートによるマリンレジャー関連の事故を減少させるためには指導員による活動はなくてはならないものとなっております。

九管区安全対策課としても今後も指導員と連携・協力して、北陸の海の安全確保に努めて参ります。

海上安全指導員について興味のある方は

海上安全指導員制度概要



IV 寄稿欄

舞鶴の神様たち（池姫神社）

元舞鶴事務所長 山本勝眞

今回は「^{いけひめじんじゃ}池姫神社」を取り上げたいと思います。

国道 27 号線沿い舞鶴西地区市街地の「大手千日前交差点」を折れて府道 28 号線（通称白鳥線）に入り、約 700 メートルのところの伊佐津川にかかる二ツ橋をさらに右折して南へ 5 キロ半ほど行くと「^{ぬのしき}布敷」という集落があります。

この集落の入り口に今回取り上げた「池姫神社」は鎮座されています。

この池姫神社は社名からも女性の神様であることがわかります。

そうですこの神社の御祭神は「^{いちきしまひめのみこと}市杵嶋 姫 尊」という女神様です。

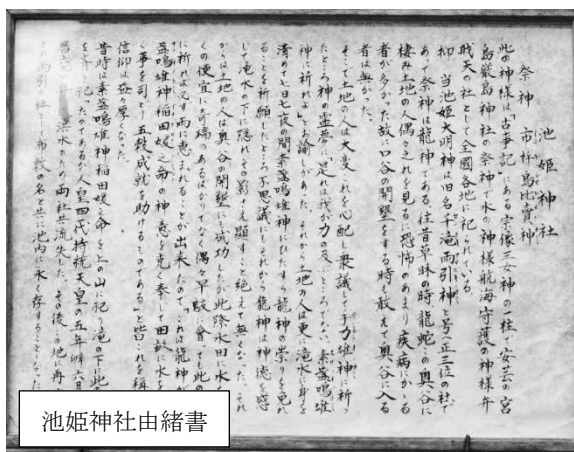
旧名は「^{せんたきあまびきのかみ}千滝雨引 神」といい、^{りゅうじんでん}龍 神 伝に残る雨乞いの社として伝わっています。



本地図は「地理院地図(GSI Maps)」から編集

さて、池姫神社の拝殿正面には額におさめられた由緒書が掲げてありまして、その由緒書きに、この神社の御祭神は、「宗像三女人の一柱、安芸の宮島 巖 島神社祭神」と同神とあります。

水の神様を祀る神社の御祭神は、だいたい女神さまでありますのでこちらの神様もそうなんですね。



ところで、宗像三女人とは「^{たごころひめのみこと}田心 姫 尊」、^{たぎつひめのみこと}「端津 姫 尊」、^{いちきしまのひめ}「市岐 嶋 姫」のご三方のことで三姉妹神様であります。

ちなみに三女人についてももう少し詳しくお話しますと、「^{たごころひめのみこと}田心 姫 尊」は長女で別名を「^{たぎりひめのみこと}多紀理 姫 尊」、^{みほつひめのみこと}「美穂津 姫 尊」とも申され福岡県宗像市の玄界灘に浮かぶ沖の島（沖津宮）に祀られています。「^{たぎつひめのみこと}端津 姫 尊」は二女で別名を「^{たぎつひめのみこと}多岐津 姫 尊」とも呼ばれ、同市の大島中津宮に祀られています。そして三女の「^{いちきしまのひめ}市岐 嶋 姫」は別名「^{いつくしまひめのみこと}巖 島 姫 尊」ともいわれ、本土（同市）の^{いづみ}辺津宮に祀られています。

この三女神は、「^{すさのおのみこと}素戔嗚 尊」と日向妻「^{おおひみこむちのみこと}大日靈女 貴 尊（天照大神）」との間にお生まれになりました。

池姫神社の由緒書きによりますと、

往古地域の人々が、奥谷（池内川の上流か？）の土地を開墾しようとしていたが、^{たちからおのみこと}竜蛇が邪魔をしてできないので「^{たちからおのみこと}手力 雄 尊」に助けを求めた。

「^{たちからおのみこと}手力 雄 尊」は、「自分は手に負えないので、^{すさのお}素戔嗚の神に頼むように」とお教えがあった。教えに従って身を清めてお願いしたところ災いがなくなり、開墾は成就したうえに、毎年雨にも恵まれるようになった。

という趣旨のことが書かれています。

神社は昔、谷の奥（川の上流？）に祀られていたが、洪水により流出したので、持統天皇の時代今の地に遷し祀られたと由緒書きにあります。

なお、同書に書かれてある「^{すさのお}稲田姫の命（尊）」は、素戔嗚の神の出雲における妃神様であり、記紀神話の八岐大蛇伝説にも登場される神様ですが、やはり水の神様として祀られているのではないかと思います。

^{たちからおのみこと}手力 雄 尊 は、記紀神話の「天岩戸伝説」に剛力の神様として登場されますね。

さて、池姫神社へのアプローチは、といいますと、布敷集落のかかりで池内川にかかる橋を渡ると左手すぐそばに、多数の巨大な古木が立ち並び、こんもりとした宮森があり、その森の中に神社はありますのですぐに目に入ります。

「村社池姫神社」(村社は神社の各)と彫られた石柱と石の鳥居(明神型)がたっており、神社境内への入り口になっています。

境内には、狛犬(唐獅子)、石燈籠がそれぞれ2対あり、この間を歩いて本堂へと向かいます。

参道を左に折れながら、奥へ進んでいきますと拝殿に至り、拝殿の後方にはご本殿が、右手にはお神輿殿がそれぞれありますが、ご本殿内部は拝見することが出来ませんでした。



神社鳥居



狛犬 (境内に2対)

ご拝殿の正面のお賽銭箱に万願寺トウガラシが2本おいてありましたがどなたか熱心な氏子の方がお供えになったものでしょうか?

境内社は、ご本殿に向かって左隣に御嶽さん(?)、稲荷神社 金毘羅さん、八坂神社の四神を祀ったものが一棟、右隣りにお伊勢さんを祀った小さい祠が一棟鎮座しておられます。

いずれも著名な神様ながら、御嶽神社は、全国各地に嶽を称する神社はたくさんありますので、こちらの御嶽神社の神様はどなたかわかりません。



拝殿・ご本殿



ご本殿 (横面から)



境内社

向かって左の境内社(四神)のさらに左側に注連縄を回した太い朽木があり、地上数メートルのところの折れ口から新しい中心的なご神木(幹)が生まれており、立て札から近年文化財として整備されたものの様でした。



老木 (朽木)

V 連絡事項

会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。(令和6年12月31日届出分まで)

○ 指定代表者等の変更等

頁	会社・団体名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
2	ENEOS(株)	秋田油槽所長 林 英 明	秋田油槽所 佐 藤 英 政
4	(株)INPEX JAPAN	国内エネルギー事業本部 直江津LNG基地所長 本 永 晃 弘	国内エネルギー事業本部 直江津LNG基地 操業グループマネージャー 遠 山 司
9	(株)日本海洋科学	代表取締役社長執行役員 小 山 智 之	執行役員 安 田 克
12	敦賀ターミナル(株)	代表取締役社長 榮 誠	業務部 主幹 水 馬 一 彦
13	福井石油備蓄(株)	取締役福井事業所長 飯 島 誠	福井事業所 副所長(技術担当) 宇都宮 徹

○ 代表者等の変更

頁	会社・団体名	代表者職氏名	担当者職氏名
17	東北電力ネットワーク(株) 佐渡電力センター	所 長 田 代 賢 一	所長代理 吉 田 裕 一
18	日本通運(株)舞鶴支店	所 長 芦 生 達 夫	舞鶴事業所所長 松 本 清 一
18	中国電力(株)島根原子力発電所	所 長 岩 崎 晃	総務課長 井 原 英 定

○ 会社・団体名等の変更

頁	(旧) 会社・団体名	(新) 会社・団体名
4	(株)INPEX	(株)INPEX JAPAN

○ 住所等の変更

頁	会 社 ・ 団 体 名	住 所
2	秋田造船鉄工(株)	〒010-0511 男鹿市船川港船川字外ヶ沢 147 番地

「その輝きが素敵です 点検する目と見張りの目」

「機械の眼 電子の眼 最後の決め手はあなたの眼」

会 報 第 1 4 3 号

令和 7 年 1 月 発行

発 行 所 新潟市中央区竜が島 1 丁目 9 番 2 号
公益社団法人 日本海海難防止協会
〒 9 5 0 - 0 0 7 2

電 話 (025) 247-8531

F A X (025) 247-0316

E-mail nikkaikb@poem.ocn.ne.jp

URL <https://nikkaikb.com>



(公財)日本海事センターから補助を受け発行しております。

印 刷 所 株式会社 ウィザップ